

群馬県地域リハビリテーション支援センター

ニュースレター 38号

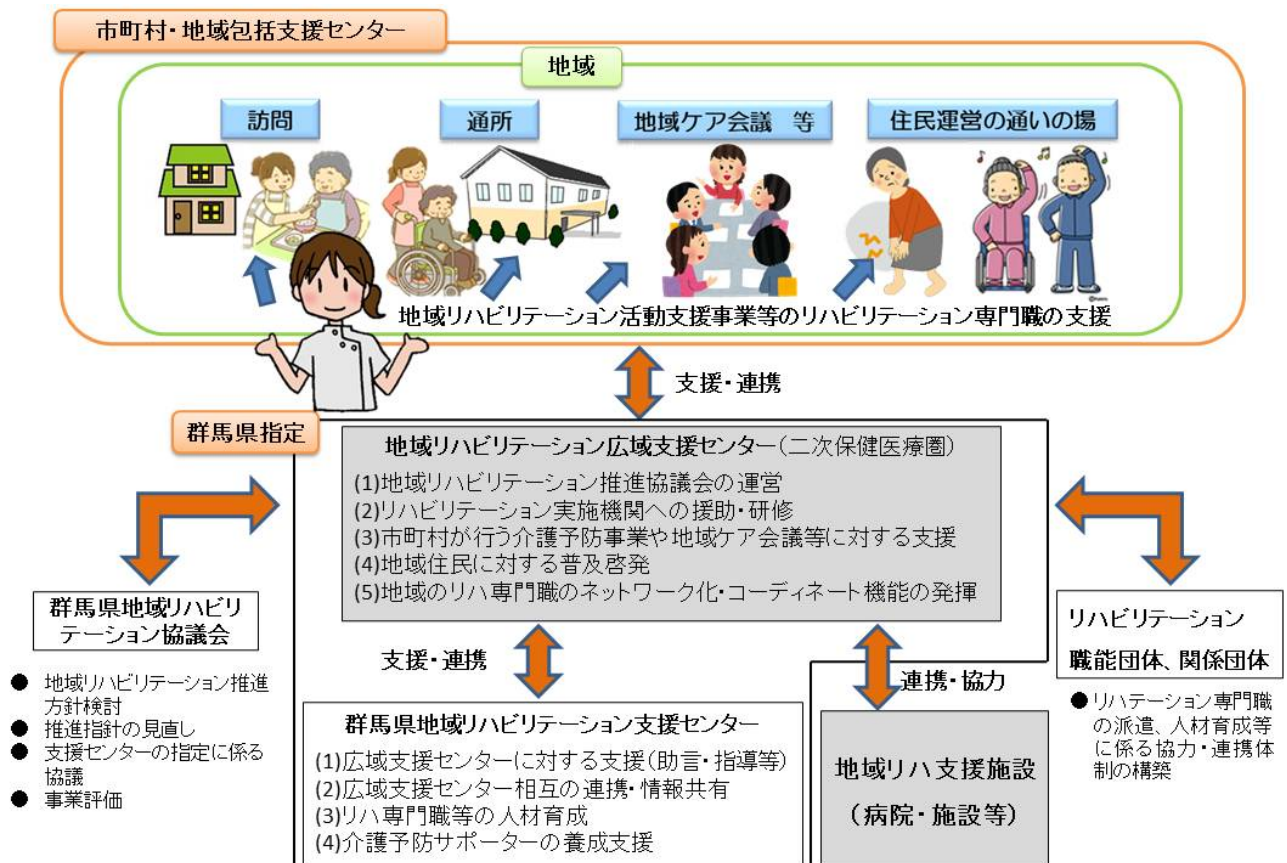
2022. 3. 10

地域リハビリテーション広域支援センターの役割と「地域リハ支援施設」の協力について

群馬県地域リハビリテーション支援センター長 山路雄彦

今年度、個別の地域リハビリテーション広域支援センター（広域支援センター）との連絡会議に出席いたしました。この中で、広域支援センターの存在や役割が、一般の方や市町村・地域包括支援センター担当者のみならず、リハビリテーション専門職に周知されていないとのご意見をいただきました。このことから、様々な機会を通して広域支援センターの役割、地域リハ支援施設の重要性、群馬県地域リハビリテーション支援センター（県支援センター）との関係などをお知らせしていきたいと考えております。現在、住民主体の「通いの場」や地域ケア会議などの市町村で実施する介護予防事業に、リハビリテーション専門職による支援が求められています。「群馬県地域リハビリテーション推進指針（第3版）」では、下図にあるように広域支援センターには多くの役割が求められています。とくに(5)地域のリハビリテーション専門職のネットワーク化とコーディネート機能により、市町村のリハビリテーション専門職による支援の要請に応えることが求められています。このことは、自センターだけでは不可能なこともあり、圏域内の医療機関等の「地域リハ支援施設」の連携・協力が不可欠となります。これからも、県支援センターとしては、各広域支援センターで、できるだけ多くの「地域リハ支援施設」にご協力をいただけるようバックアップをしていく予定です。ぜひ、皆様のご協力をお願いいたします。

市町村での介護予防事業等への広域支援センターならびに地域リハ支援施設の関わり



地域リハビリテーション推進指針（第3版）は下のURLもしくは右のQRコードから閲覧、ダウンロードできます。ぜひ、一度ご覧ください。

<https://www.grsc.biz/document.php>



令和3年度地域リハビリテーション広域支援センター情報交換会

群馬県地域リハビリテーション支援センター長 山路雄彦

昨年度の2月に開催いたしました「地域リハビリテーション広域支援センター情報交換会（情報交換会）」を、今年度も群馬県地域リハビリテーション支援センター（県支援センター）が企画をして、令和4年2月7日（月）18:00から開催いたしました。今回の情報交換会は、蔓延防止等重点措置の期間であったためにZOOMによる遠隔会議といたしました。群馬県内の地域リハビリテーション広域支援センター（広域支援センター）10施設が出席され、群馬県健康福祉部健康長寿社会づくり推進課の担当者も出席されました。情報交換会の目的は、広域支援センターや県支援センターが一同に会して、各広域支援センターの日頃の地域リハビリテーションに関する諸活動を報告して、その実践や課題などを協議・検討することにあります。今回は、情報交換会の最初に、前橋地域リハビリテーション広域支援センター（老年病研究所附属病院）から、20分程度活動状況を報告して頂きました。（報告内容については、次の記事をご覧ください。）続いて各広域支援センターから、①広域支援センターの運営状況、②地域の実状、③コロナ禍での活動を報告して頂きました。来年度は2回開催を予定しております。

前橋地域リハビリテーション広域支援センターの活動状況報告

公益財団法人老年病研究所附属病院 前橋地域リハビリテーション広域支援センター
理学療法士 佐藤みゆき

新型コロナウイルスのパンデミックは当初の期待とは裏腹に未だ先の見えない状況です。さまざまな活動が制限を受けることになり、前橋地域リハビリテーション広域支援センターでも一時は対面の事業がすべて中止となりました。

自粛を余儀なくされる一方、活動を続ける方法を模索し、まず取り組んだのが健康動画の制作とYouTube配信です。この2年間で制作・配信した動画は、運動や栄養、認知機能に関するものなど20本を数えるまでになりました。これらの動画は、ご希望に応じてDVDでの配付にも対応しています。

地域の通いの場がお休みになるなど外出や運動、人と会う機会が減り健康への影響が心配される中、昨年度は活動を再開した通いの場への支援として試験的にリモート研修を実施しました。当センターと通いの場をオンラインで繋ぎ、当セン



これまでに制作した動画

ターの複数のスタッフが画面越しに講話や体操などを行いました。ICT(情報通信技術)に不慣れな住民も多いため機器設営補助として当スタッフ1名を通いの場へ派遣し、なるべく地域住民の手で行えるような支援としました。参加者からは「新しい体験としてとても大切だった、楽しかった」など生き生きとした声が聞かれ高齢者からの受け入れは想像以上に良かったと感じています。

この経験をもとに今年度はサロンでのオンライン研修の実施、前橋市で行う介護予防サポーター養成研修でのWEB研修補助などを実施しました。いずれも会場での機器設営補助を行い、オンラインでの繋がりがより身近になることも目的の一つとしています。当センターにとっては、これらの経験が地域でICTを活用するためのノウハウの蓄積と改善に結びついています。今後はこれらの知識と技術を地域のリハ職とも共有し活用を広げられればと考えています。

コロナ禍は、図らずも社会のICT化を加速させています。今後「ウィズコロナ」あるいは「ポストコロナ」の社会においてICTはますます身近なものになりそうです。当スタッフと地域住民が共にICTリテラシー(理解、活用能力)を高められるような活動も視野に入れつつ、地域包括ケアシステム構築の一端を担っていきたいと考えています。



第19回群馬地域リハ研究会 感想

前橋協立病院 作業療法士 荒城真菜美

今回、入院患者さま方の中で、退院後フレイル状態になることが予測される、またはすでにその状態である方、及び入院患者さまのリハプログラムの新しい知見に、と思い、研修会に参加いたしました。

研修会の最初の方のお話で、体操を伝えるだけでは、身体面は向上しても、社会面はそのままであるということが、盲点だったなと思いました。リハビリ職がいなくても、自分で、自宅と言う手軽な場所でする運動というのは大切でも、1人でできる分、身体面しか向上しないのだとわかりました。

また、上肢の運動は、具体的に何の動作に効くのか、大切なことなのに今までしっかり考えていなく、漠然としていました。患者さまからの質問に対しても、“筋肉・体力がつく”、“腕が上がるようになる”といった日常生活と結びつきにくい説明をしていました。まず自分はその改善しなければいけないと思いました。研修後、さっそく上着が介助の方がいたため、行いました。

自主、ということが大切な理由も理解できました。つい自分が教える人と言う役割に思えてしましますが、ずっとそのままの関係でいることは違うのだなと思いました。体操の啓発・普及・継続の大切さを学べましたが、同時に簡単なこと、と言うことではないなと思いました。

今、私がこの研修を通してできることは、自宅退院の方にこの体操の存在を知ってもらう事、そしてもしその方が地域で何かやりたいと思っている人であれば、こういうことができるという可能性につなげることだと思いました。また、私のいる病院では、斑会という自主グループともいえる小集団があります。その斑会にリハ職が時折呼ばれ、体操などを教える機会があるため、その中で広げ、さらにほかの班に広がり、と言う事が出来たらいいなと思いました。

今回、この研修会に参加することができて良かったです。ありがとうございました。

第19回群馬地域リハ研究会では、東京都立大の浅川先生より鬼石モデルの開発・普及経験からフレイル予防に関する講義をいただきました。

冒頭に、フレイル予防と地域包括ケアシステムの関係や、体操開発の経緯についてのお話がありました。先生自身の対象者とのやり取りの経験から、外出先や友人など、「出かける用事が少ない」ことがわかり、この解決に向けて体操開発・普及が行われたとお話が印象に残りました。体操を通して、仲間とともに家の外で体を動かし、学びあう機会を身近な場所に作ることでそれぞれの自信や生きがいにつながるというお話から、仲間づくりの大切さを感じました。

続いて地域保健事業、対象者各々の立場から見た体操に求められる要素や、「鬼石モデル」の普及・発展についての解説がありました。対象者にとっては数値での向上よりも生活動作が楽になる実感が持てること、また自身が楽しいと思えるものが重要であることをお話いただきました。また、体操の普及に当たって、学ぶ場と行う場の区別といった効率的な自主運営や、専門職のあり方を様々な自治体での実例を交え説明いただき、多くの視点を持った介護予防の展開が必要であることが再認識できました。

後半には、体操の普及啓発について、行動変容モデルの段階ごとに解説いただきました。特に運動を行おうとしている段階（熟考期、準備期）では、体験機会を通じて、住民主体の場だから得られる承認体験、様々な健康状態の方が互いに学び合う環境が、行動変容につながるというお話は、今後の介護予防のあり方のヒントに感じました。

今回の講義では実例も交えられ実践的であり、フレイルの予防、あるいは地域づくりに向け、専門職の在り方を見直す機会となりました。介護予防の展開に向け、対象者や地域のニーズに応じ多角的に取り組むことが重要と感じました。各先生方、事務局の皆様、ありがとうございました。

令和3年度 群馬県リハビリテーション関連団体 連絡協議会定例会議

群馬県リハビリテーション関連団体連絡協議会
副会長 山路雄彦

群馬県内の地域リハビリテーションに関連する団体の協議会であります「群馬県リハビリテーション関連団体連絡協議会」の定例会議が、令和4年2月12日（土）に開催されました。この定例会議は、年1回、群馬県地域リハビリテーション支援センターの活動を報告するとともに、関連団体の皆様から運営上のご質問やご意見などを伺い、今後の運営に活かすためのものです。今回は、遠隔（ZOOM）での開催でしたが、多くの団体の皆様にご出席いただきました。来年度以降も開催していく予定となっておりますので、よろしく願い申し上げます。

群馬県地域リハ支援センター事務局便り (2021年12月～2022年3月)

12/22 ニュースレター37号発送
2/7 群馬県地域リハビリテーション広域支援センター情報交換会
2/12 第19回群馬地域リハ研究会
3/10 ニュースレター38号発行

編集デスク

山路雄彦
山上徹也
角田祐子
発行
群馬県地域リハビリテーション支援センター
連絡先
群馬大学大学院保健学研究科内
Tel/Fax:027-220-8966